

2. 北海道の自立を支えます

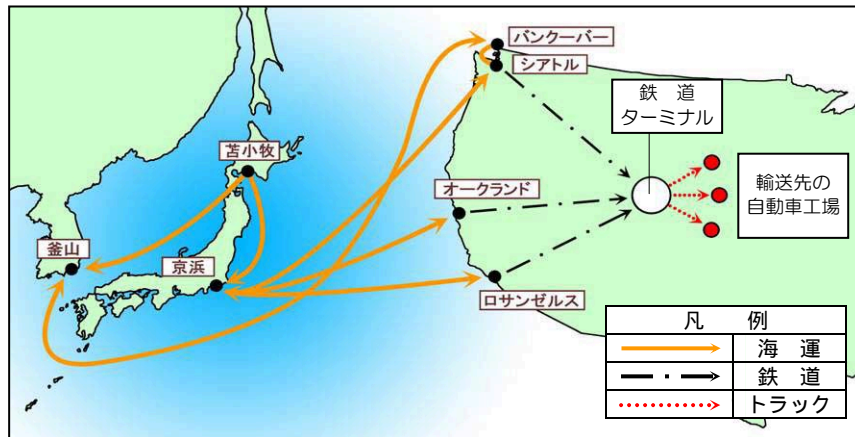
北海道港湾は、

- ・国際コンテナへの対応など、物流効率化により北海道経済を支えてきました。これからは、更なる海外・国内・道内とのネットワーク機能の強化や情報化等使いやすさのみならず、つくりを進めます。これにより、物流サービスが向上され、国内外との北海道経済の競争力の強化を支えます。
- ・物流拠点として、室蘭港、苫小牧港に代表されるように、魅力的な産業空間を提供してきました。これからは、地域産業が必要とする船舶の大型化への対応を継続するとともに、魅力ある港湾産業空間の形成につとめます。これにより、地域産業や地域経済の活性化が図られます。
- ・地場産業の拠点として、また、離島に代表される地域生活の拠点として地域の暮らしを支えてきました。これからは、地域の個性を活かした空間、まちづくりと一体となった空間、安全・安心な空間の形成を進めます。これにより、地域の活性化と安全・安心な暮らしが出来るようになります。

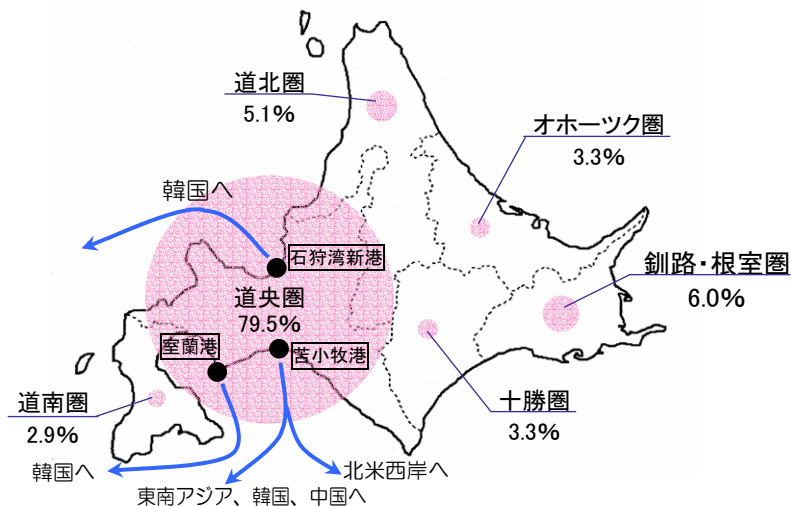
北海道港湾は、これからも、経済、産業、地域社会などへ貢献することで、北海道の自立を支えます。

物流の効率化により北海道経済の競争力強化を支える北海道港湾

自動車部品など北海道で生産される製品の輸出や、道民の生活に欠かせない家具や衣料品などの物資輸入については、主にコンテナ船が用いられています。これらの国際コンテナ輸送は、貨物の8割近くが道央圏に集中しているとともに、多方面への航路選択や多頻度運航などの高い利便性が求められることから、専用の国際海上コンテナターミナルを苫小牧港に整備してきました。



道内自動車物品の北米への主な輸送ルート例



輸出入コンテナ貨物の発生集中状況

出典：全国輸出入コンテナ貨物流動調査 (H10 年) をもとに作成

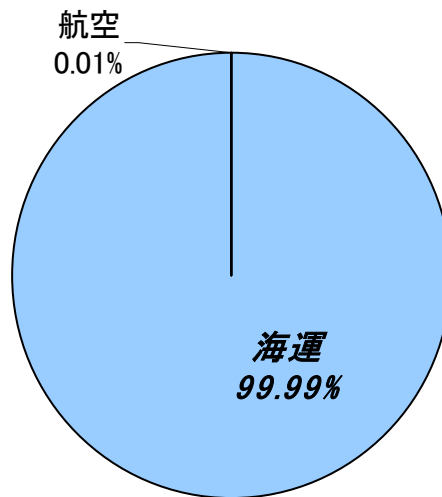
※海上コンテナ航路は H13 年現在

今後は、2001年12月にWTOに正式加盟した中国を中心に、国際コンテナ輸送量の増加が見込まれます。また産業界では、生産システムの柱としてジャストインタイム方式を掲げているところもあり、北海道産業の更なる競争力強化を図るには、これに対応したさらなる輸送コスト縮減、輸送時間の短縮を含めたサービスの高度化が求められています。このことから、物流の海と陸との結節点となる港湾において、さらなる効率的な物流の確保が必要です。

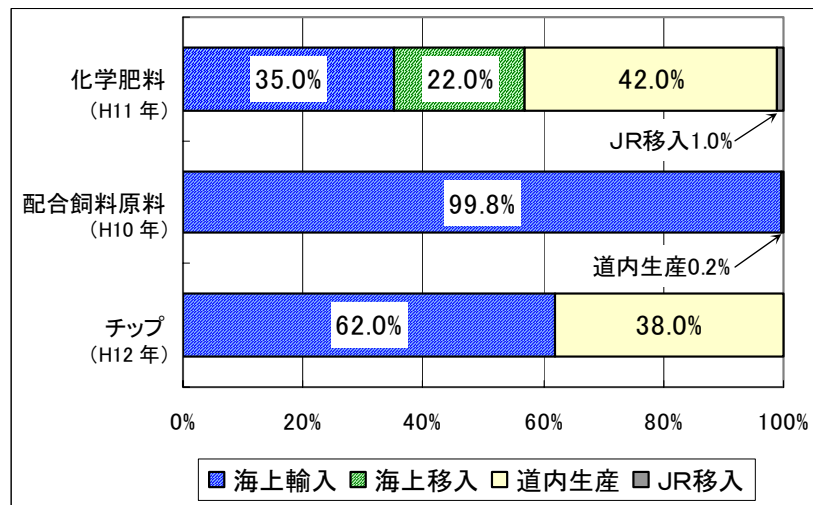
このようなことから、国際コンテナ海上輸送のネットワーク強化、道内各地へと結ぶ道路ネットワークとのアクセスの改善、IT等の活用による使いやすい港湾を目指すなど、ネットワーク機能の強化された港湾を形成し、国内外との競争力のある北海道産業の発展に貢献します。さらに大規模地震時にも壊れにくい耐震強化岸壁の拠点配置をするとともに他の交通機関とも連携しながら輸送ルートの多重性（リダンダンシー）や、航行船舶の安全を確保するなど災害時においても安定的な物資輸送が行えるようになります。

魅力ある産業空間の提供により地域経済を活性化させる北海道港湾

北海道の基幹産業である農業、紙パルプ工業などの、原材料（飼肥料、チップ、原木など）の調達については、その大部分が港湾を経由した海上輸送に頼っています。



北海道－海外間輸送機関別分担率(平成11年)
出典:北海道港湾統計・空港管理調書をもとに作成



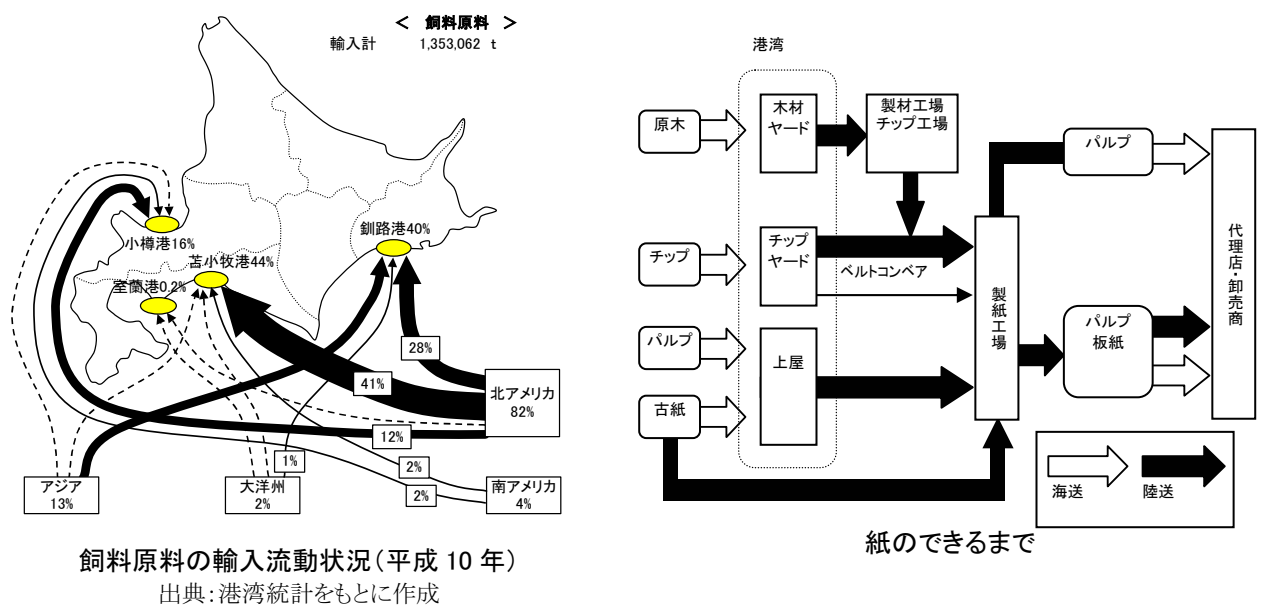
海上輸送に依存する原材料調達

また、製紙工場や配合飼料工場をはじめとした基幹産業は、道内広域的に立地していることから、立地企業位置に近いところの港湾を利用することにより陸上輸送距離を短縮するとともに、海上輸送において、より大型な貨物船を利用することにより物流コスト縮減を図ることが重要です。

このようなことから、大型貨物船が利用可能な大水深の多目的国際ターミナルを必要な場所へ配置するなど拠点機能の強化に取り組んできました。港湾の直背後に工場を建設し、大型岸壁を持つことで、直接大型船での海上輸送が可能となり、原料などの陸上輸送コストも限りなくゼロに近づけることができます。このように港湾背後の空間は、道外、海外への輸送を必要とする産業にとって、非常に魅力的な空間となっています。

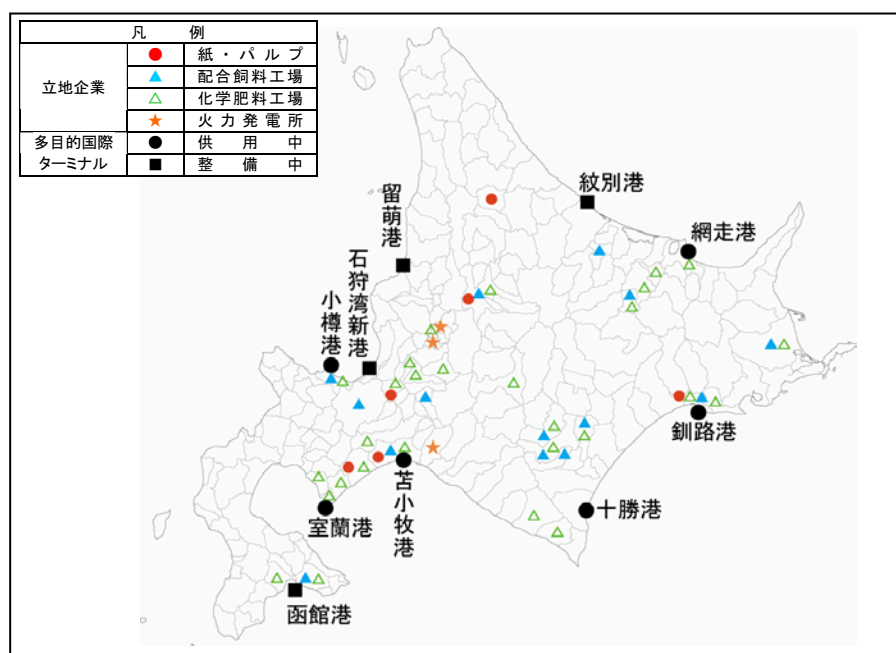
近年の北海道は特に経済の低迷が深刻となっており、北海道港湾においても今まで以上に地域経済を支えていくことが必要となっています。

このため、引き続き陸上輸送コスト削減や船舶の大型化に対応した多目的国際ターミナルの拠点配置を進めるとともに、港湾機能の強化、特に積雪・寒冷地という北海道の特性をはじめ各地域の個性を活かしながら、魅力的な港湾空間や産業空間の形成を図ることにより、地域産業の活性化、地域経済の向上が図られます。



飼料原料の輸入流動状況 (平成 10 年)

出典: 港湾統計をもとに作成



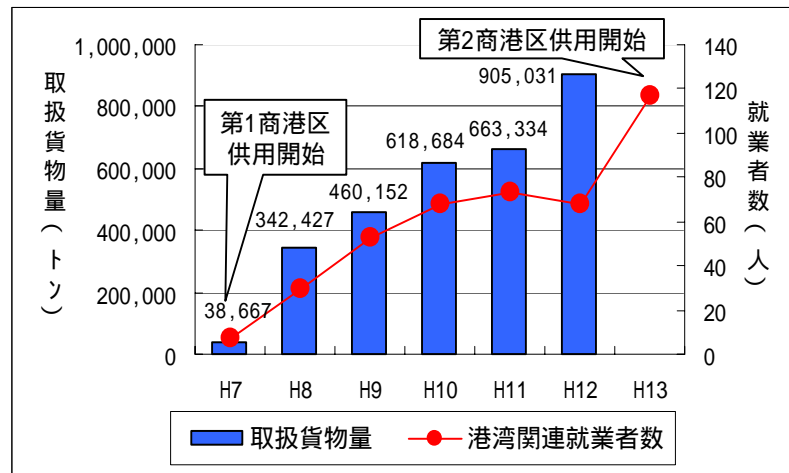
水深 12m以上の多目的国際ターミナルの拠点配置 (平成 13 年現在)

【用語メモ】

多目的国際ターミナル：多様な荷姿の外貨貨物を取り扱うターミナル

地域の暮らしを支える北海道港湾

地方港湾の白老港は、昭和57年に新規着工し、平成2年に漁港区の一部が供用しました。従来、水産活動は、15km離れた登別漁港を利用しており、白老沖の漁場まで往復約2時間を要していましたが、これにより漁場まで約10分で往復できるようになり、水産業の活性化に寄与しています。また同港は、平成7年に第1商港区が供用開始され、地元で生産される砂・砂利の移出を中心に取扱貨物量が急増しました。これに伴い、背後に企業が立地し、港湾関連就業者数が増加するなど、地域経済の活性化・雇用の確保に貢献しています。



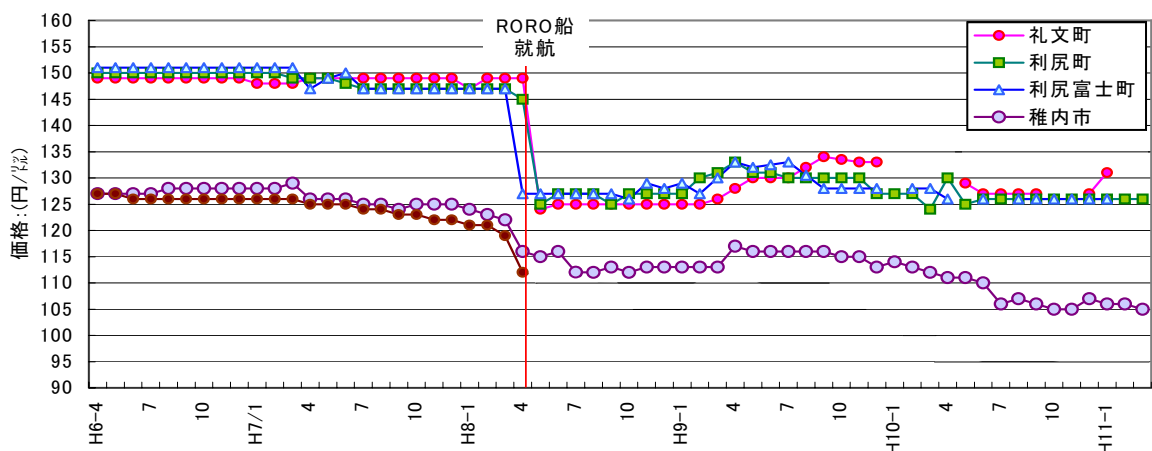
白老港貨物量と就業者数推移

出典:白老町調べ

また、陸路で本道と結ばれていない離島にとっては、海上輸送が貴重な輸送手段となっています。例えば、利尻島では本道からのRORO船が就航したことにより、本道とのガソリンの価格差が縮まるなど価格の改善が見られ、地域住民の生活を支えています。

今後は、各地域における砂・砂利、水産などの地場産業や、人と物の輸送を海上輸送に頼らざるをえない離島の特性などを勘案しながら、個性あふれる港湾空間や産業空間の形成を図ることにより、地域の産業が活性化され、地域経済の向上、雇用の確保が図られます。

また、まちづくりとの連携や愛着のある港湾空間の形成を図るとともに、厳しい気象条件の克服、各種災害に対する被害の軽減化や緊急避難、復旧支援への対応など近年の北海道民の暮らしに配慮した機能を備えることにより、快適でかつ安全・安心度の高い北海道民の暮らしに貢献します。



価格:レギュラーガソリン1リットル当たりの平均価格

出典:稚内開建資料(物価モニター価格動向調査より)

利尻・礼文両島へのRORO船就航によるガソリン価格の低下効果

出典:稚内開建資料をもとに作成(物価モニター価格動向調査)